

コマツ
2015年度第2四半期(中間)
決算説明会

2015年10月28日

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO	大橋 徹二
取締役(兼)専務執行役員CFO	藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長	稲垣 泰弘

16:00 **ご説明**

①2015年度第2四半期(中間)決算の概要

取締役(兼)専務執行役員CFO 藤塚 主夫

②2015年度業績見通し

常務執行役員 経営管理部長 稲垣 泰弘

16:50 **質疑応答**

17:30 **閉会**

2015年度 第2四半期(中間)決算の概要

**コマツ
取締役(兼)専務執行役員CFO
藤塚 主夫**

【売上・損益】

- ・ 連結売上高は前年同期比▲5.3%減収の8,924億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲21.2%減益の990億円。売上高営業利益率は同▲2.2ポイント減の11.1%。
- ・ 純利益は前年同期比▲16.5%減益の650億円。

金額単位:億円	2014年4~9月 (2014年度上期) ¥102.6/USD ¥139.3/EUR ¥16.5/RMB	2015年4~9月 (2015年度上期) ¥121.9/USD ¥134.6/EUR ¥19.5/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	9,425	8,924	▲500	▲5.3%
セグメント利益	1,226	984	▲242	▲19.8%
その他の営業収益(▲費用)	29	6	▲23	-
営業利益	1,256	990	▲266	▲21.2%
売上高営業利益率	13.3%	11.1%	▲2.2ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲20	▲11	+9	-
税引前純利益	1,235	978	▲257	▲20.8%
純利益*	779	650	▲128	▲16.5%
1株当たり配当金(円)	29円	29円	±0円	

*米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

□為替レートは、1ドル:121.9円、1ユーロ:134.6円、1元:19.5円です。
前年同期に比べて、ドルと元が円安、ユーロは円高となりました。

□2015年度上期の連結売上高は、前年同期比▲5.3%減収の8,924億円、営業利益は▲21.2%減益の990億円となりました。営業利益率は▲2.2ポイント減の11.1%となりました。

□純利益は▲16.5%減益の650億円です。

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲5.9%減収の7,941億円。セグメント利益は▲20.9%減益の924億円。セグメント利益率も▲2.2ポイント悪化し、11.6%。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲1.6%減収の1,007億円。セグメント利益は▲3.5%減益の75億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円	2014年4~9月 (2014年度上期)		2015年4~9月 (2015年度上期)		前年同期比	
					増減	増減率
売上高	9,425		8,924		▲500	▲5.3%
建設機械・車両	(8,428)	8,436	(7,928)	7,941	(▲500) ▲495	(▲5.9%) ▲5.9%
産業機械他	(996)	1,024	(996)	1,007	(▲0) ▲16	(▲0.0%) ▲1.6%
消去	▲35		▲24		+10	-
セグメント利益	□13.0%	1,226	□11.0%	984	▲242	▲19.8%
建設機械・車両	□13.8%	1,167	□11.6%	924	▲243	▲20.9%
産業機械他	□7.6%	78	□7.5%	75	▲2	▲3.5%
消去または全社	▲18		▲15		+3	-

各セグメントの状況:

■ 建設機械・車両

北米において一般建設機械の需要を着実に取り込んだものの、鉱山機械の需要低迷に伴う販売減少や中国をはじめとする新興国における需要減少が大きく、減収・減益となりました。

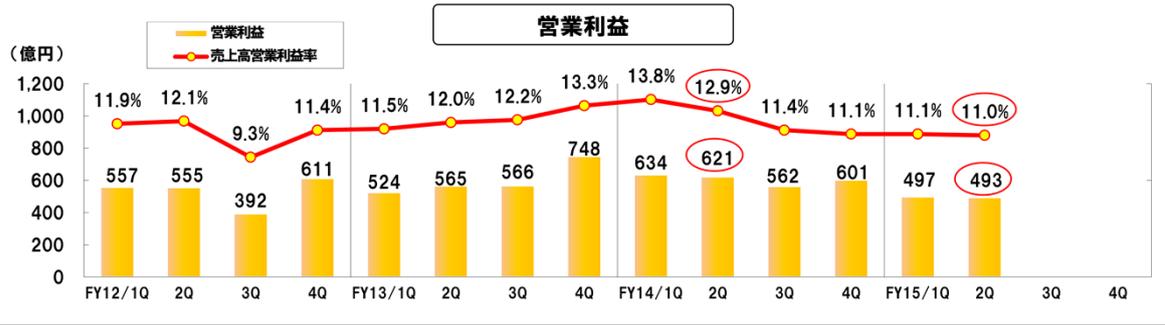
■ 産業機械他

半導体業界の好調な設備稼働に支えられメガフォンの売上げが伸長したものの、全体としては減収・減益となりました。

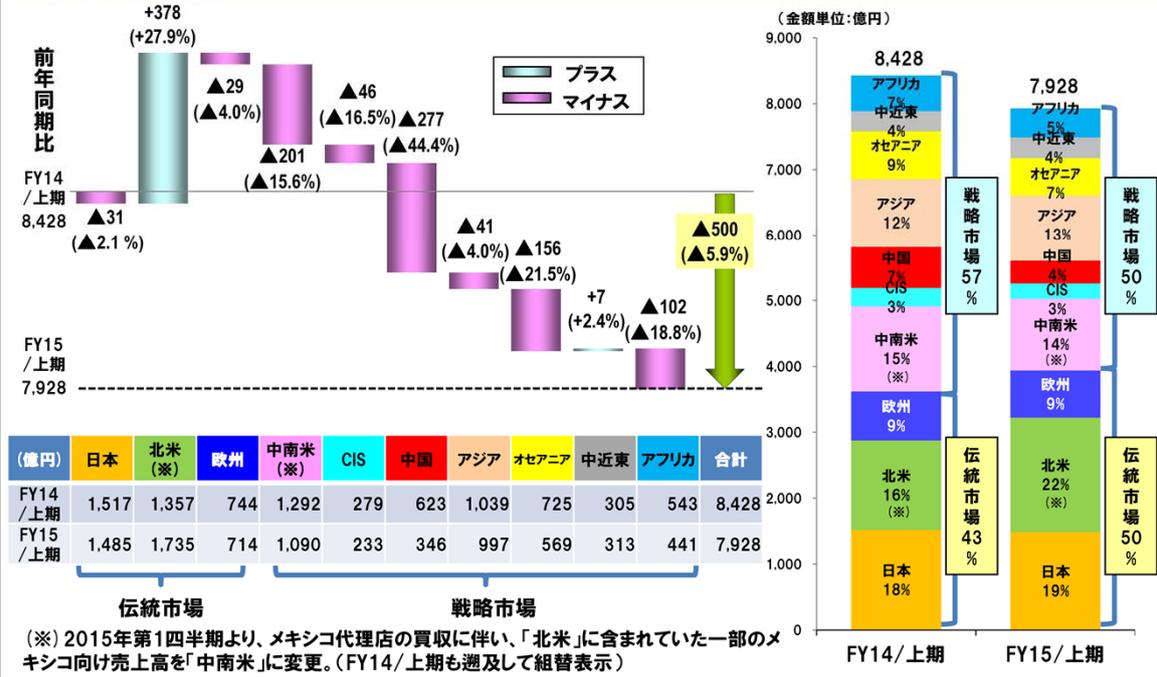
□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲5.9%減収の7,941億円となりました。北米において一般建機の需要を着実に取り込みましたが、鉱山機械及び中国を始めとする新興国における需要・販売の減少が、大きく影響しました。

□セグメント利益は▲20.9%減益の924億円です。

□産業機械他は、売上高は、前年同期比▲1.6%減収の1,007億円、セグメント利益は、▲3.5%減益の75億円となりました。半導体業界の好調な設備稼働に支えられメガフォンの売上げが伸長したものの、全体としては減収・減益となりました。



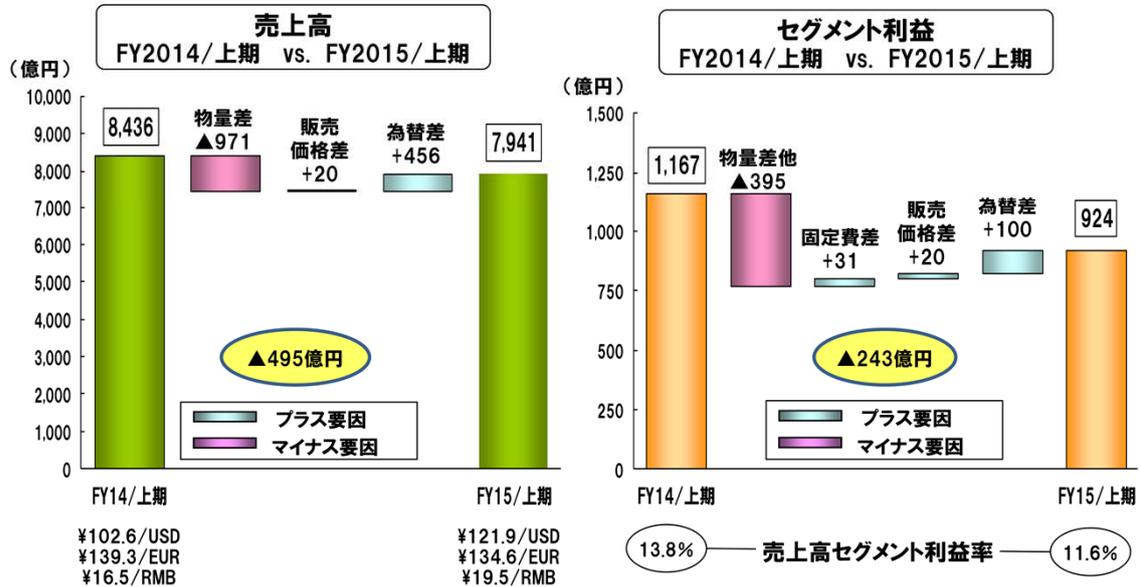
- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲5.9%減収の7,928億円。
- ・北米が伸長したものの、中国・中南米・オセアニア等戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が50%に増加。



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲5.9%減収の7,928億円となりました。

□北米が伸長したものの、中国・中南米・オセアニア等戦略市場での売上減少が響き、前年同期比で減収となりました。その結果、構成比では、伝統市場の比率が増加し、50%となりました。

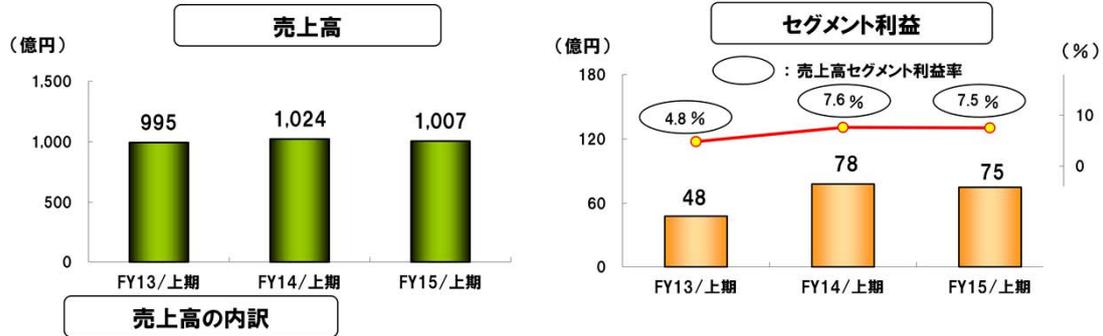
- ・中国・中南米・オセアニア等戦略市場での需要減少による物量減が大きく、円安の効果があったものの、売上高は前年同期比▲495億円の減収。セグメント利益も同▲243億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比▲2.2ポイント悪化し11.6%。



□売上高は▲495億円の減収です。内容としては、販売価格のアップ+20億円と為替の円安効果+456億円のプラス要因はあったものの、中国・中南米・オセアニア等の戦略市場での需要減少による物量減の影響が響きました。

□セグメント利益についても、固定費や販売価格、円安等のプラス効果はありましたが、物量差と構成差によるマイナスが大きく、前年同期比▲243億円の減益となりました。

・半導体業界の好調な設備稼働に支えられメガフォンの売上げが伸長したことに加え、鍛圧機械の販売が拡大したものの、売上高は前年同期比▲1.6%減収の1,007億円、セグメント利益率は7.5%。



売上高の内訳

金額単位:億円	FY13/上期	FY14/上期	FY15/上期	前年同期比	
				増減	増減率
コマツ産機等 (プレス事業合計)	259	254	282	+27	+11.0%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	331 [25]	365 [44]	364 [42]	▲1 [▲1]	▲0.3% [▲4.2%]
その他 [うち、メガフォン] [うち、コマツハウス]	405 [106] [81]	403 [131] [81]	360 [165] [80]	▲43 [+34] [▲1]	▲10.7% [+26.5%] [▲1.2%]
合計	995	1,024	1,007	▲16	▲1.6%

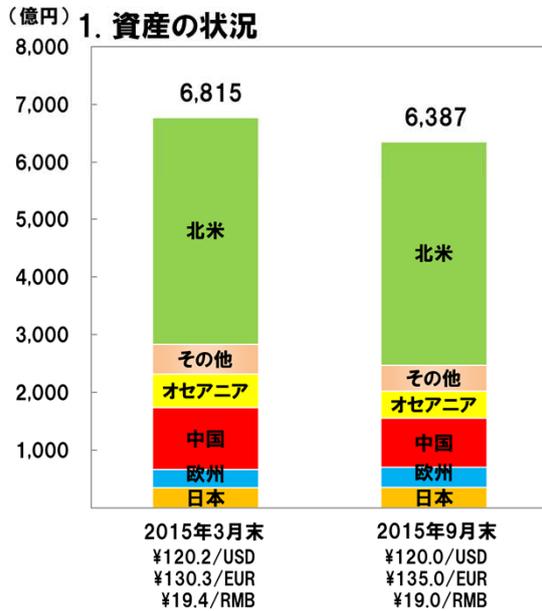
□産業機械他部門では、半導体業界の好調な設備稼働に支えられてメガフォンの売上げが伸長したことに加え、鍛圧機械の販売が拡大したものの、売上高は前年同期比▲1.6%減収の1,007億円となりました。

□セグメント利益は75億円、セグメント利益率は前年同期比で微減の7.5%となりました。

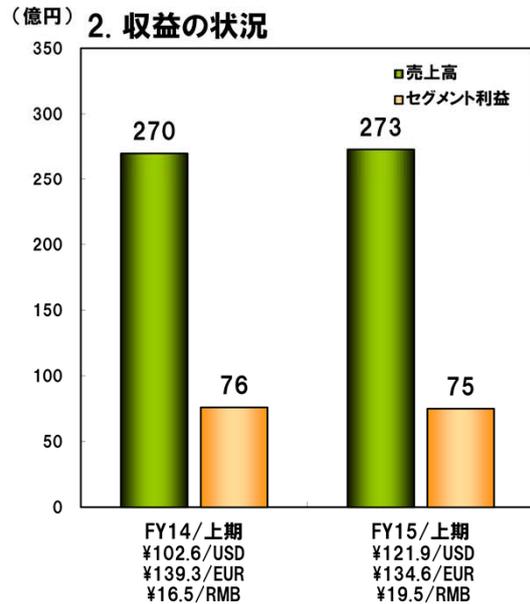
- ・資産は主に中国・オセアニア・チリの新規取組の低下により、前年度末比で減少。
- ・売上高は対前年同期比ほぼ横ばい。

リテールファイナンス子会社の状況

1. 資産の状況



2. 収益の状況



□リテールファイナンス子会社の総資産は、北米は好調ながら、主に中国・オセアニア・チリの新規取組の低下により、前年度末に比べ▲427億円減少し、6,387億円となりました。為替の影響が▲73億円含まれており、実質は▲354億円の減少です。

□売上高及びセグメント利益はほぼ横ばいです。

- ・総資産は、前年度末比で運転資金の減少等により、▲1,638億円の減少。
- ・株主資本比率は同+4.0ポイント増の58.6%。ネットD/Eレシオは0.27。

(金額単位:億円) ○:ネットD/Eレシオ	2015年3月末		2015年9月末		増減
	¥120.2/USD ¥130.3/EUR ¥19.4/RMB		¥120.0/USD ¥135.0/EUR ¥19.0/RMB		
現金・預金(含む定期預金) [a]	1,073		696		▲376
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) ＜除くリテールファイナンス会社＞	9,002		8,367		▲634
	<3,981>		<3,560>		<▲421>
棚卸資産	6,228		6,084		▲144
有形固定資産	7,439		7,347		▲92
その他資産	4,240		3,849		▲390
資産合計	27,984		26,345		▲1,638
支払手形・買掛金	2,250		1,958		▲291
借入金・社債 [b]	5,891		4,938		▲952
＜除くリテールファイナンス会社＞	<902>		<182>		<▲720>
その他負債	3,856		3,365		▲491
負債合計	11,999		10,263		▲1,735
(株主資本比率)	(54.6%)		(58.6%)		(+4.0ポイント)
株主資本	15,289		15,434		+144
非支配持分	695		648		▲47
負債及び純資産合計	27,984		26,345		▲1,638
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○0.32	4,818	○0.27	4,241	▲576
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)	▲0.00		▲0.03		

- 総資産は前年度末比で、▲1,638億円減少しました。為替の影響が▲281億円あり、これを除けば、実質は▲1,357億円の減少です。
- 棚卸資産は、前年度末比で▲144億円減少しています。為替の影響▲96億円を除くと▲48億円の減少です。
- 借入金・社債は▲952億円減少しましたが、為替の影響が▲88億円含まれています。現金・預金とネットしたベースでは▲576億円の減少です。
- 株主資本比率は同+4.0ポイント増の58.6%となりました。
- ネット・デット・エクイティ・レシオは0.27で、リテールファイナンス会社を除くと▲0.03となりました。

2015年度業績見通し

コマツ
常務執行役員 経営管理部長
稲垣 泰弘

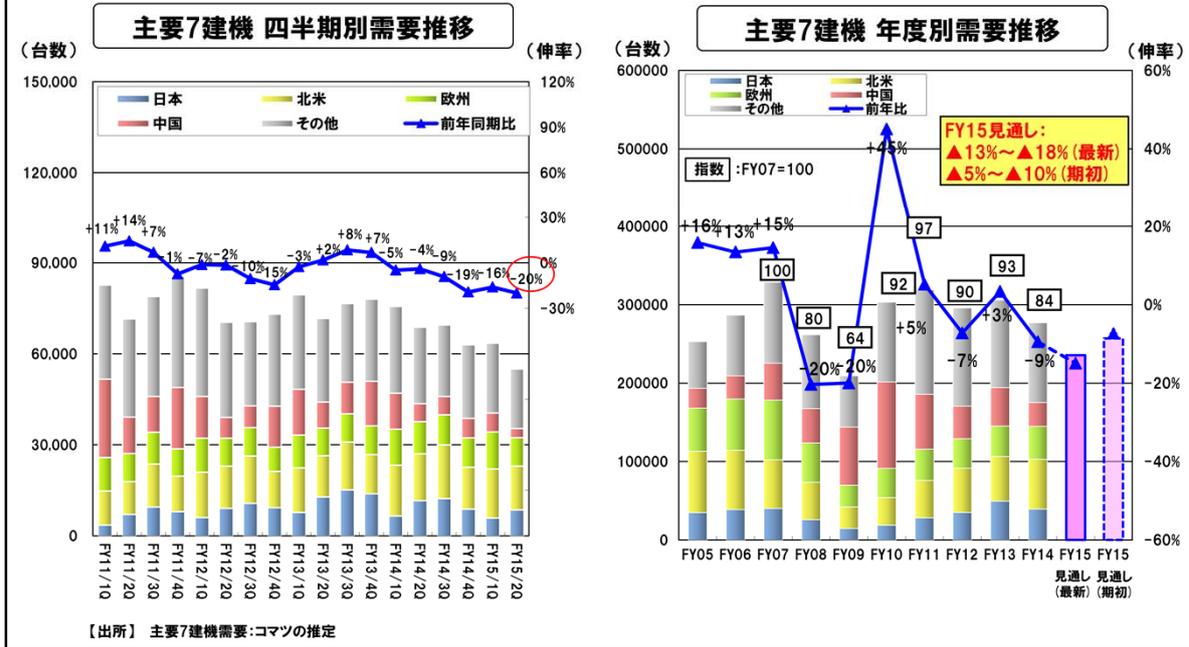
・2015年度通期の売上高・利益の見通しは4月公表値を変更致しません。

	2014年度		2015年度見通し (4月公表値)		前年比	
	増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率
	% 利益率 ():外部顧客向け売上高 金額単位:億円					
	2014年度 ¥109.7/USD ¥139.6/EUR ¥17.7/RMB		2015年度見通し (4月公表値) ¥115/USD ¥127/EUR ¥18.3/RMB			
売上高	19,786		18,800		▲986	▲5.0%
- 建設機械・車両	(17,613) 17,634		(16,680) 16,700		(▲933) ▲934	(▲5.3%) ▲5.3%
- 産業機械他	(2,172) 2,215		(2,120) 2,150		(▲52) ▲66	(▲2.4%) ▲2.9%
- 消去	▲62		▲50		+12	-
セグメント利益	12.2% 2,409		12.0% 2,250		▲160	▲6.6%
- 建設機械・車両	12.9% 2,272		12.6% 2,100		▲172	▲7.6%
- 産業機械他	7.3% 162		8.4% 180		+18	+10.7%
- 消去または全社	▲25		▲30		▲5	-
その他の営業収益(▲費用)	10		▲40		▲50	-
営業利益	12.2% 2,420		11.8% 2,210		▲210	▲8.7%
その他の収益(▲費用)	▲59		▲70		▲11	-
税引前当期純利益	2,360		2,140		▲220	▲9.4%
純利益 *1	1,540		1,380		▲160	▲10.4%
1株当たり配当金(円)	58円		58円		±0円	

*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

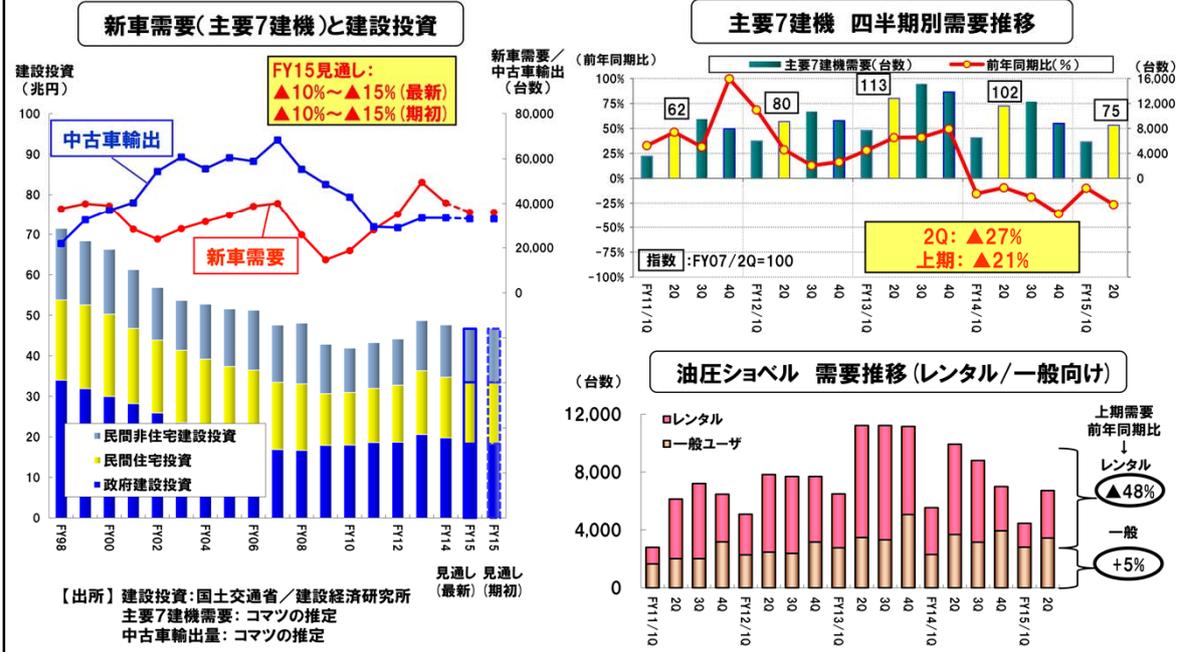
□4月に公表した、売上高・利益の見通しは変更致しません。

- ・2015年度第2四半期の需要は、前年同期比▲20%。
- ・一部堅調な地域はあるものの、中国をはじめとする戦略市場の需要減少が大きく、年間の需要見通しは期初想定を下回る見込み。



- 2015年第2四半期の世界需要は、前年同期比▲20%減少の見込みです。
- 一部堅調な地域はあるものの、中国をはじめとする戦略市場の需要減少が響いています。
- 4月の公表時には年間の需要を▲5%~▲10%と見ましたが、期初想定を下回る地域が多く、現在のところ全体では▲13%~▲18%の見込みです。

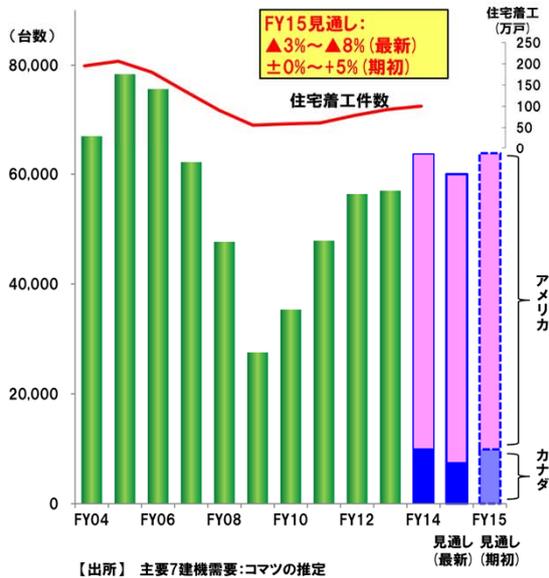
- ・2015年度第2四半期の需要は、前年同期比▲27%。
- ・年間の需要見通しは、期初想定幅ではあるが弱含み。



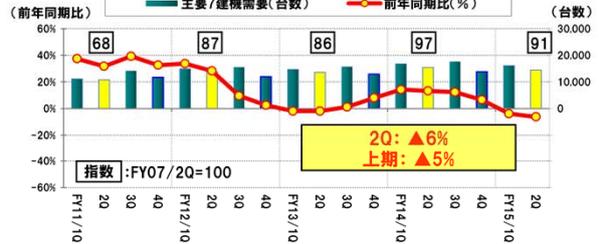
- 2015年第2四半期の日本の需要は、前年同期比▲27%減少しました。
- 排ガス規制関連の反動減が想定以上に大きく、特に7トンクラスを中心に大幅に需要が落ちました。
- 年間の需要見通しとしては期初想定と同じ▲10%~▲15%とみておりますが、足元は弱含んでいます。

- ・2015年度第2四半期の需要は、前年同期比▲6%。
- ・住宅建設および道路などのインフラ分野向けの需要は堅調に推移しているが、鉱山・エネルギー分野向け需要は低調に推移。
- ・年間の需要見通しは期初想定を下回る見込み。

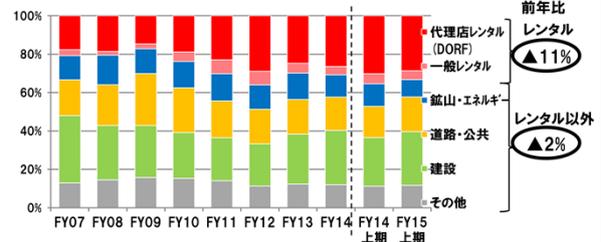
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



セグメント別需要構成比 (台数ベース)

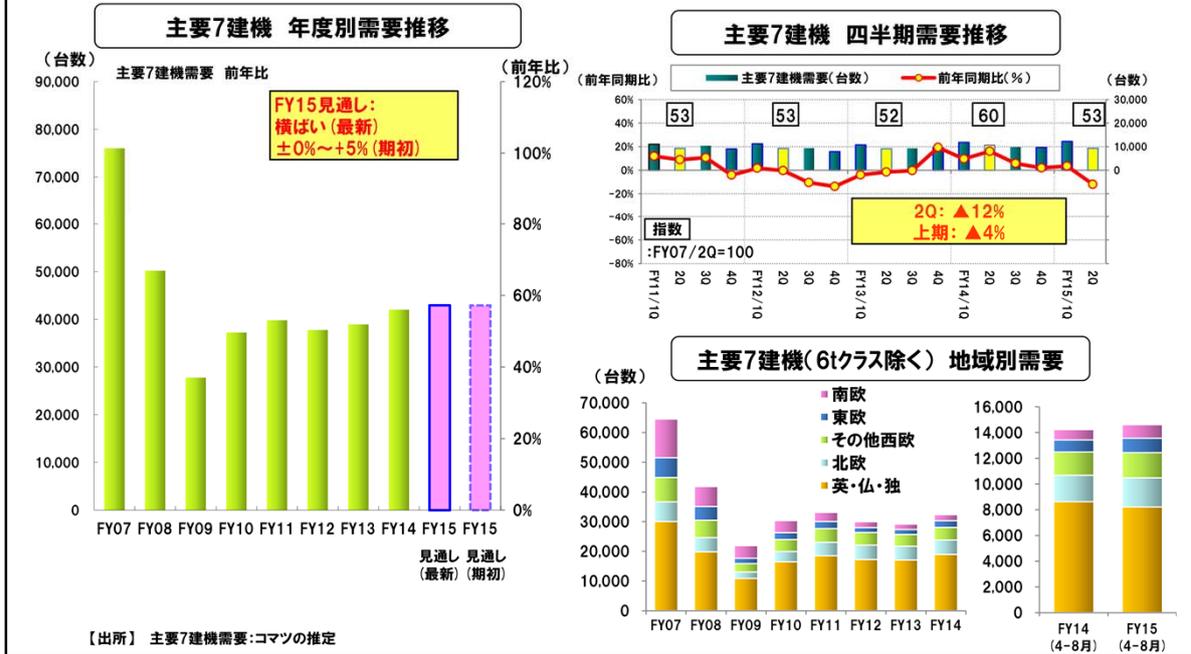


□2015年第2四半期の北米の需要は、前年同期比で▲6%減少しました。

□住宅建設及び道路などのインフラ分野向けの需要は堅調に推移し、依然として、過去と比較して高いレベルにあります。

□年間の見通しは、カナダにおける需要の落ち込みが大きく期初想定を下回る見通しです。

- ・2015年度第2四半期の需要は、前年同期比▲12%。
- ・年間の需要見通しは、横ばいの見通し。

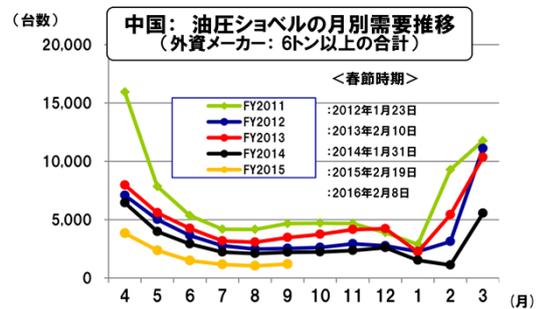
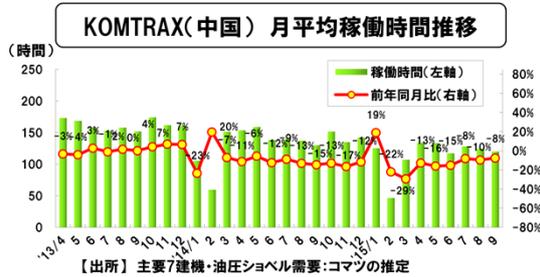
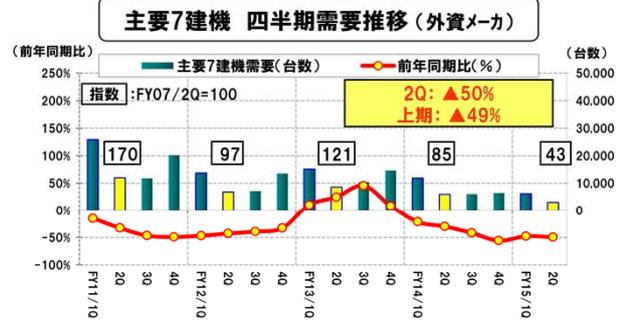


□2015年第2四半期の欧州の需要は、前年同期比▲12%減少の見込みです。

□英・仏・独の主要3カ国の需要が減速する一方、北欧・南欧・東欧は回復してきています。

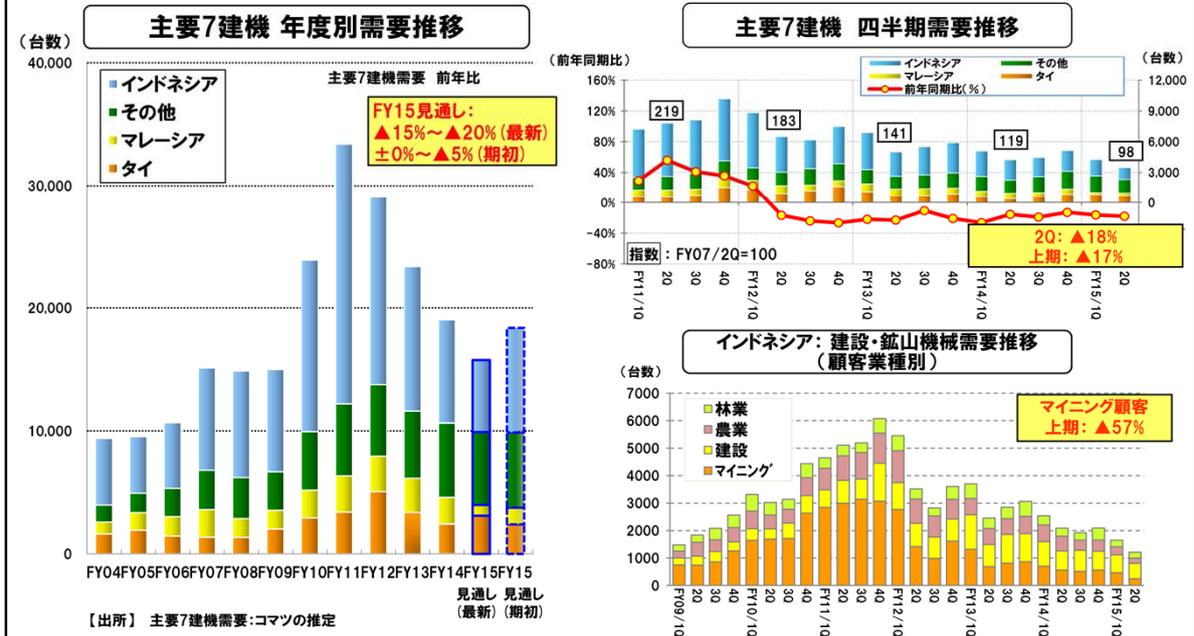
□年間の需要見通しは、前年比横ばいと想定しています。

- ・2015年度第2四半期の需要は、前年同期比▲50%。政府による景気刺激策の効果は見えず、引き続き大幅に需要が減少。
- ・年間の需要見通しは期初想定より下回る見込み。



□2015年第2四半期の中国の需要は、前年同期比▲50%減少しました。

- ・2015年度第2四半期の需要は、前年同期比▲18%。
- ・タイでの需要が伸長したものの、最大市場のインドネシアやマレーシアでの落ちこみの影響大。
- ・年間の需要見通しは期初想定より下回る見込み。

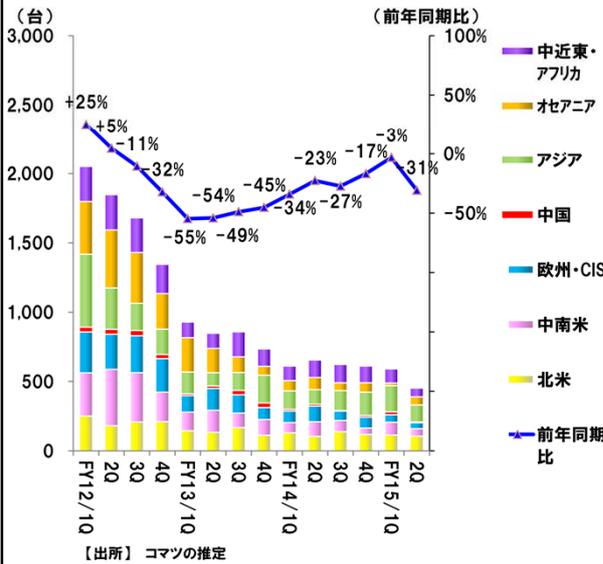


□ 2015年第2四半期の東南アジアの需要は、前年同期比▲18%減少の見込みです。

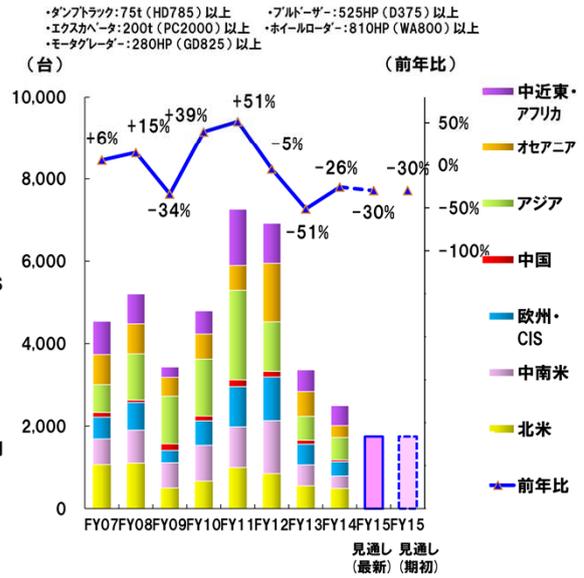
□タイでの需要が多少回復した一方で、最大市場のインドネシアやマレーシアで需要が大きく落ち込んでいます。

- ・2015年度第2四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比▲31%。
- ・年間の需要見通しとしては、期初想定と同レベル。

鉱山機械 四半期別需要推移



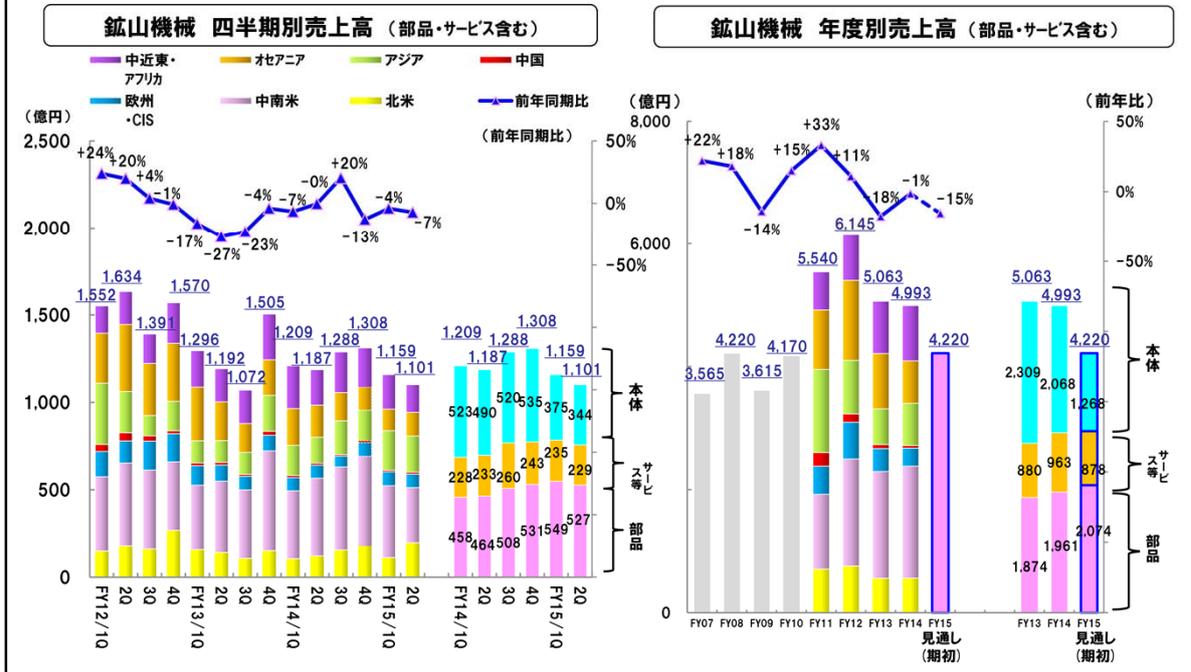
鉱山機械 年度別需要推移



□2015年第2四半期の鉱山機械の需要は、前年同期比▲31%となった模様です。

□引き続き、鉱物価格が低迷し、ユーザの投資マインドが冷え込んでいる状況下、更新需要の増加を考慮しても、需要全体の回復は2017年度以降になると考えます。

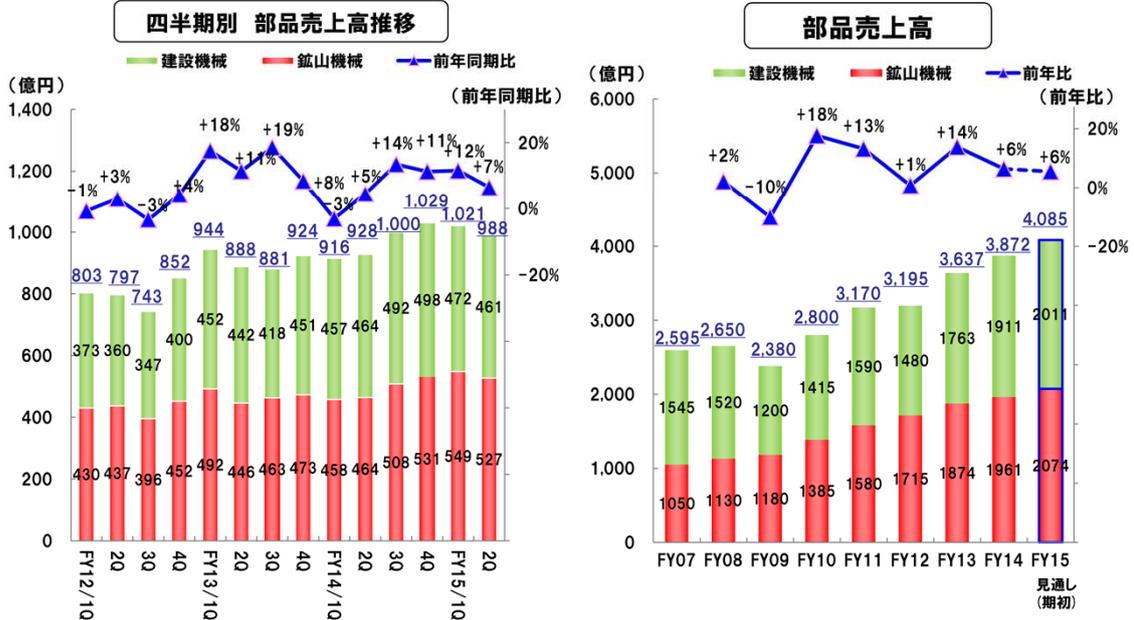
- ・2015年第2四半期の鉱山機械の売上高は、本体販売が引き続き低迷し、前年同期比▲7%減の1,101億円。
- ・部品は前年同期比増収。



□2015年第2四半期の鉱山機械の売上高は、前年同期比▲7%減の1,101億円となりましたが、為替の影響を除くと▲15%のマイナスでした。

□本体売上高が大きく落ち込んだ一方で、部品売上高は好調で、為替による影響を除いても前年同期比でプラスとなりました。

・2015年度第2四半期の部品売上高は前年同期比+7%増の988億円。
 ・新車需要が落ち込む中、為替影響を除くとほぼ横ばいで推移。



□ 2015年第2四半期(3ヶ月)の部品の売上高は、前年同期比+7%の988億円、為替の影響を除くと▲3%となりました。

□一般建機の第2四半期(3ヶ月)部品売上高については、稼働時間が下がっている影響もあり、対前年同期で為替影響を除くと▲8%となっています。

□鉱山機械の第2四半期(3ヶ月)は、新車販売は落ちているものの、部品売上高は堅調に推移し、為替影響を除いても+3%の伸びとなりました。

- ・通期の売上高・利益の見通しは今回変更致しません。
- ・上期の進捗状況と下期の見通しについては以下の通りです。

1. 上期の売上高進捗と需要の状況

<建設機械・車両の上期売上高>

億円	4月公表	2Q実績 (6ヶ月)	進捗	公表前提との差	
				需要	為替
日本	3,280	1,486	45%	↓	
北米	3,590	1,736	48%	↓	+
欧州	1,410	714	51%	→	+
中南米	2,480	1,091	44%	↓	+
CIS	250	233	93%	↓	+
中国	1,070	347	32%	↓	+
アジア	2,020	998	49%	↓	+
オセアニア	1,170	570	49%	↓	+
中近東	550	313	57%	↑	
アフリカ	860	441	51%	↓	+
計	16,680	7,929	48%		

- ・上期は中近東を除く全地域で需要が想定を下回る状況。
- ・但し、円安の影響もあり、進捗率は全体で48%と例年のペース。
⇒全体の売上高・利益も社内想定をほぼ達成。
- ・下期についても、CIS・中近東では計画達成の見込みで、北米も含め積増しを図る。

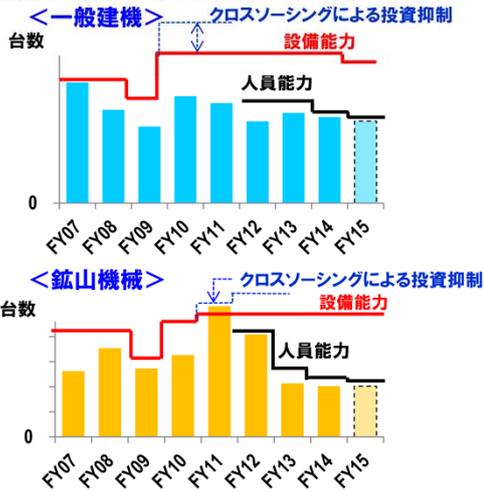
2. 下期の見通しについて

- ・需要は引続き想定を下回る見通しだが、今後の販売努力に加え、120円/\$レベルの為替が継続した場合には円安効果にも助けられ、相当程度は売上高の減少をオフセットできる見通し。
- ・利益については、計画外の土地売却益を数十億円程度(営業利益)見込んでおります。

<生産体制の改革の進捗状況>

- ・第二次構造改革(08~11年)で工場閉鎖。
 ...日本:3工場、北米:5工場。
- ・クロスソーシング体制(同一機種を複数の工場で生産)整備による投資抑制。
- ・需要の減少に対応し、人員能力はここ数年で大幅に削減。

[販売台数と生産能力のイメージ]



<人員対策>

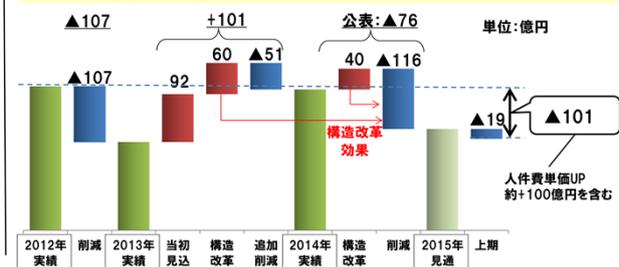
- ・需要・販売の減少に対応し、販売・生産部門とも大幅に人員削減を実施。
- ・2013年以降3500人以上削減を実施済み。

- [海外] 下記拠点でレイオフ/人員調整/希望退職実施
 - ・マイニング直営代理店
 - ・マイニング工場(アメリカ・ドイツ)
 - ・建機工場(中国・ブラジル・タイ・インドネシア他)
- [国内] 工場から販社サービス部門応援出向派遣。
 - ・期間社員・派遣社員の契約満了・縮少。

<その他の合理化とコスト削減>

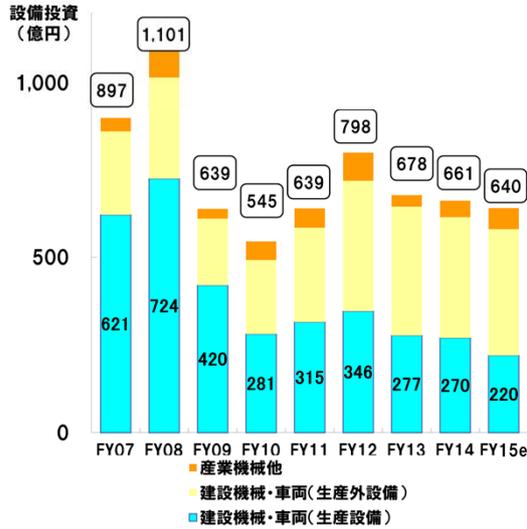
- ・継続的な構造改革プロジェクトの実行。
- ・固定費を増やさないための活動。
 - ・補給部品改革: パーツポ見直し、リードタイム削減
 - ・会社/事業所統合: 中国・インドネシア・アメリカ
 - ・拠点統廃合: 国内販社他

<固定費の推移>



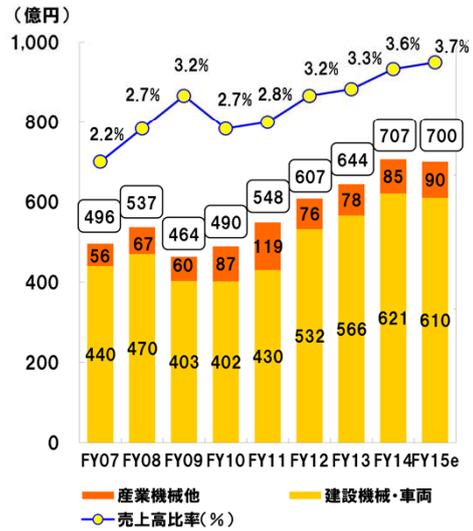
<生産設備等*の投資> *レンタル資産投資は含まず

- ・生産改革・建屋更新等を継続する一方、国内営業拠点の統合を推進。
- ・特に建機生産設備については、大幅に抑制しながら適正な設備投資を実施。
- ・将来のための研究開発投資、代理店強化のためのトレーニングセンタ等も強化。



<研究開発費>

- ・排出ガス規制対応やイノベーションによる次世代商品開発に重点的に投資を実施。
- ・開発人員を計画的に増強。



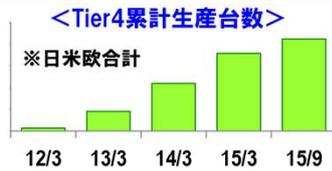
<足元の市場環境>

- ・鉱山機械の需要、新興国の需要は、当面低迷が継続。
- ・一方、日米の需要は堅調に推移するとともに、欧州についても緩やかな需要回復が継続し、伝統市場全体の需要は増加傾向。

伝統市場での主な活動

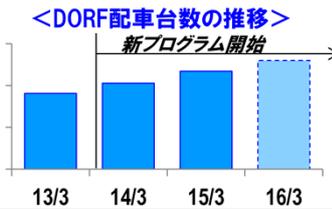
Tier4対応車の円滑な導入

- ・Tier4対応車の円滑な市場導入のために、コマツケアなどの無償定期メンテナンスサービスを付与。
- ・Tier4対応車の累計生産台数は、40,000台超。



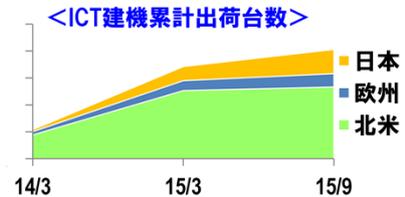
北米レンタル市場拡大への対応

- ・市場のレンタル比率増加に対応し、代理店によるレンタル事業をサポート。
- ・新しいプログラムを設定して配車台数を拡大中。
- ・良質な中古車を循環させ、中古車価格の向上を目指す。



情報化施工による新市場開拓

- ・ICT建機の市場導入。
 - ・品揃えの拡大による拡販。
 - ・日本でのスマートコンストラクション事業の推進。
- ※日本での累計出荷台数： 約450台

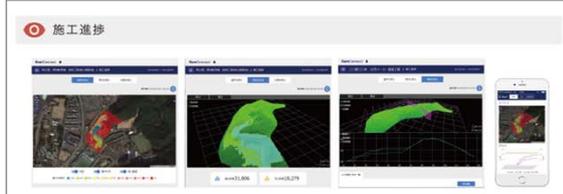


本年9月より、クラウドプラットフォーム「KomConnect」のサービス運用を開始。
 「ステレオカメラ」をICT建機に新たに搭載し、施工現場の全エリアを3次元データで掌握。
 ⇒あらゆるモノがICTでつながる建設現場の「IoT(Internet of Things)」を更に強力に推進。

- ・スマートコンストラクションは本年2月に日本でサービスを開始
- ・ICT建機の国内の導入現場数は1000超。

1. KomConnect

スマートコンストラクションの要となるクラウド型プラットフォーム「KomConnect」は、建設現場に携わる全てのヒト、キカイ、土についての情報をICTでつなぎ、解析、シミュレーション、提案まで実行。

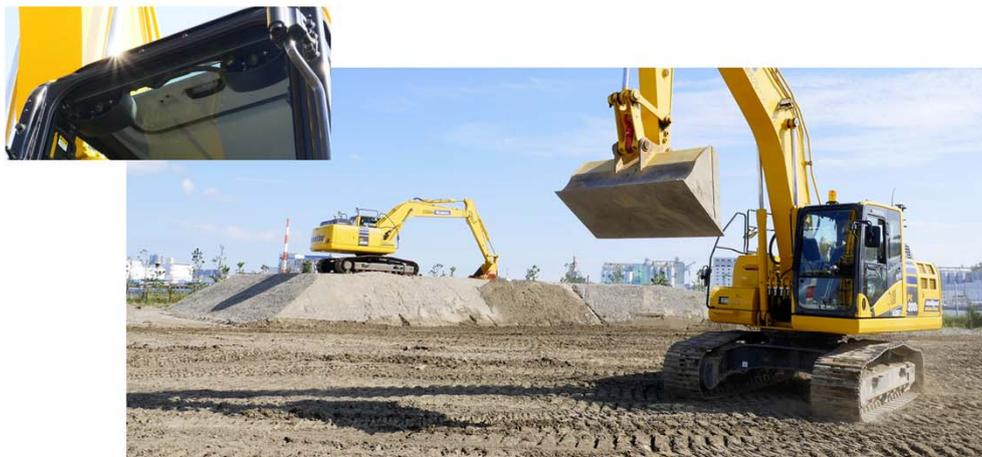


2. ステレオカメラ

ICT建機に搭載したステレオカメラが、車体周辺の地形形状を常に高速、高精度に計測。



PC200i搭載のステレオカメラ



ステレオカメラ※搭載のPC200i(※:ICT建機に搭載し、車体周辺の地形形状を常に高速、高精度に計測するシステム)

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

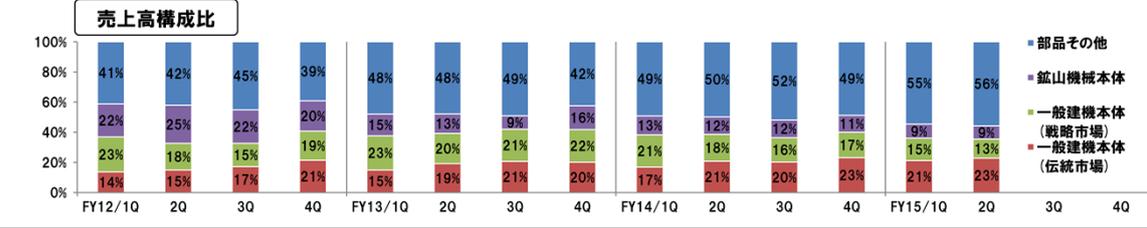
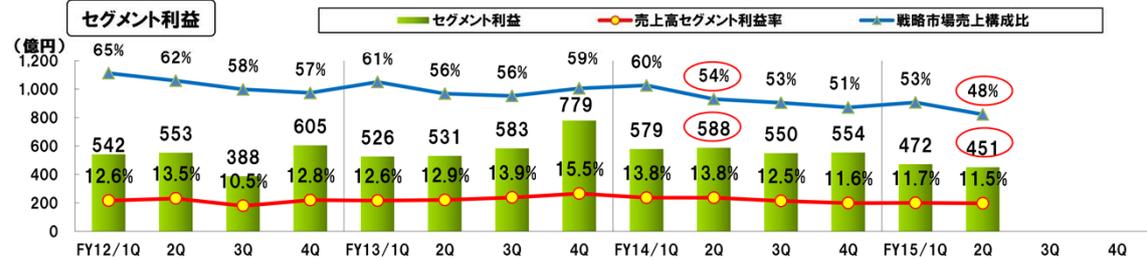
コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>

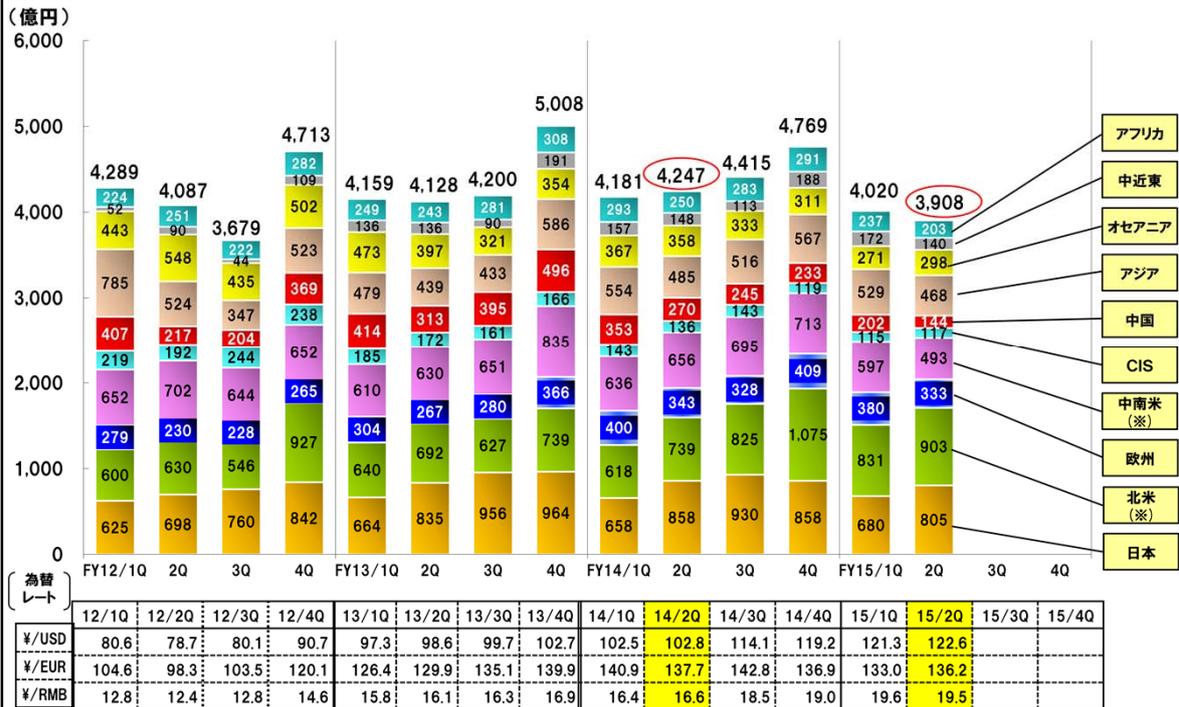
【参考資料】

<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

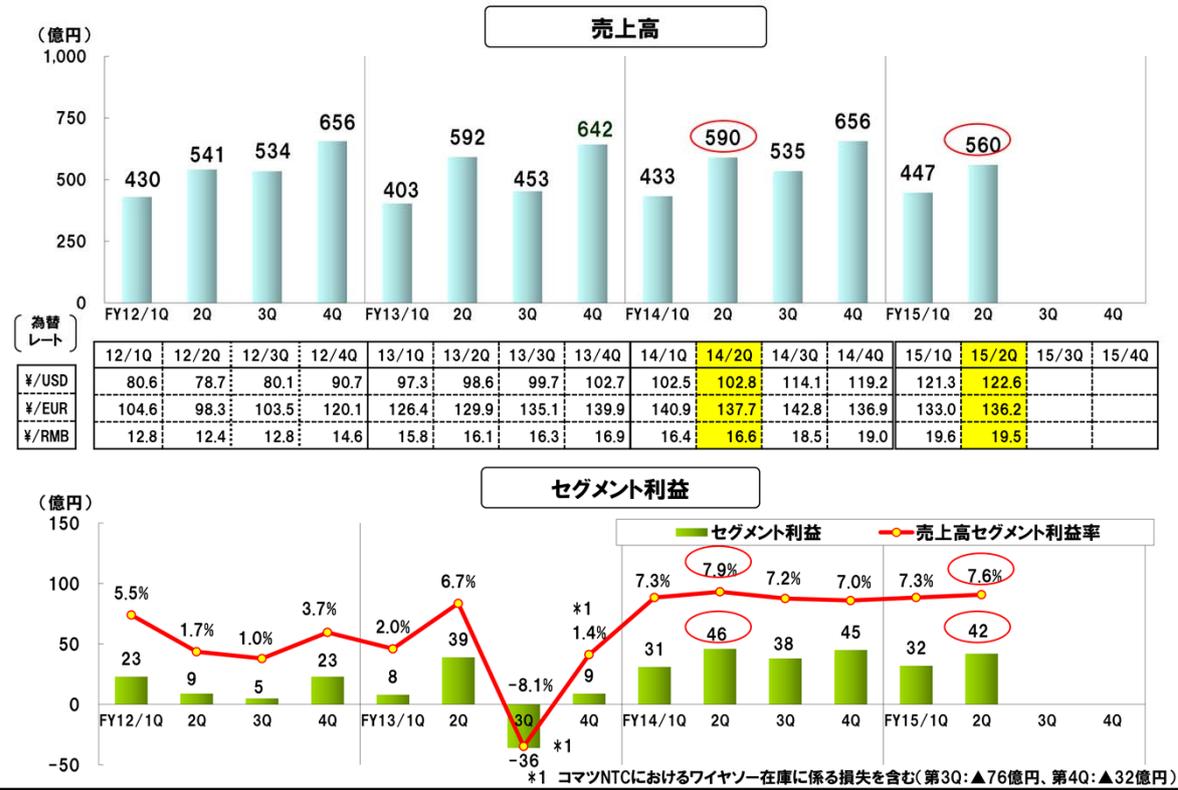
(億円) 売上高

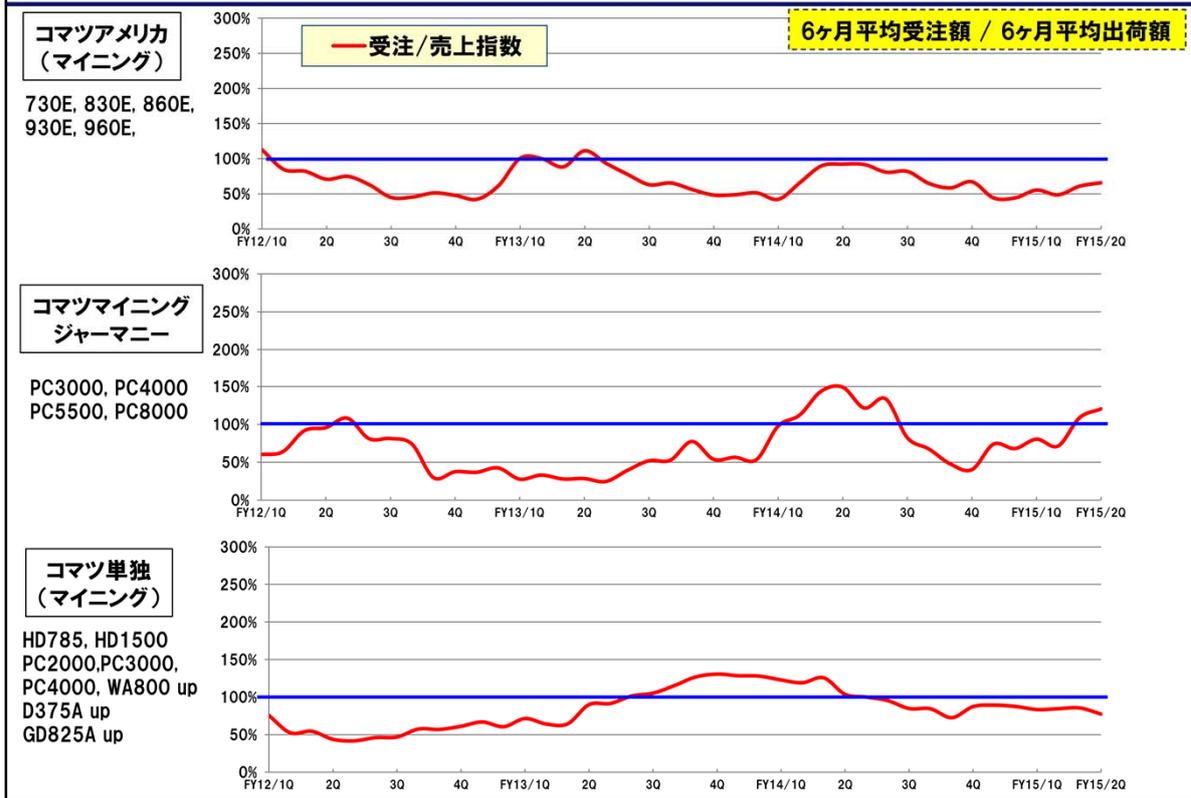
	FY12/10				FY13/10				FY14/10				FY15/10			
	12/1Q	2Q	3Q	4Q	12/1Q	2Q	3Q	4Q	12/1Q	2Q	3Q	4Q	12/1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,297	4,093	3,684	4,719	4,166	4,134	4,207	5,014	4,185	4,251	4,420	4,777	4,027	3,914		
¥/USD	80.6	78.7	80.1	90.7	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6		
¥/EUR	104.6	98.3	103.5	120.1	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2		
¥/RMB	12.8	12.4	12.8	14.6	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5		



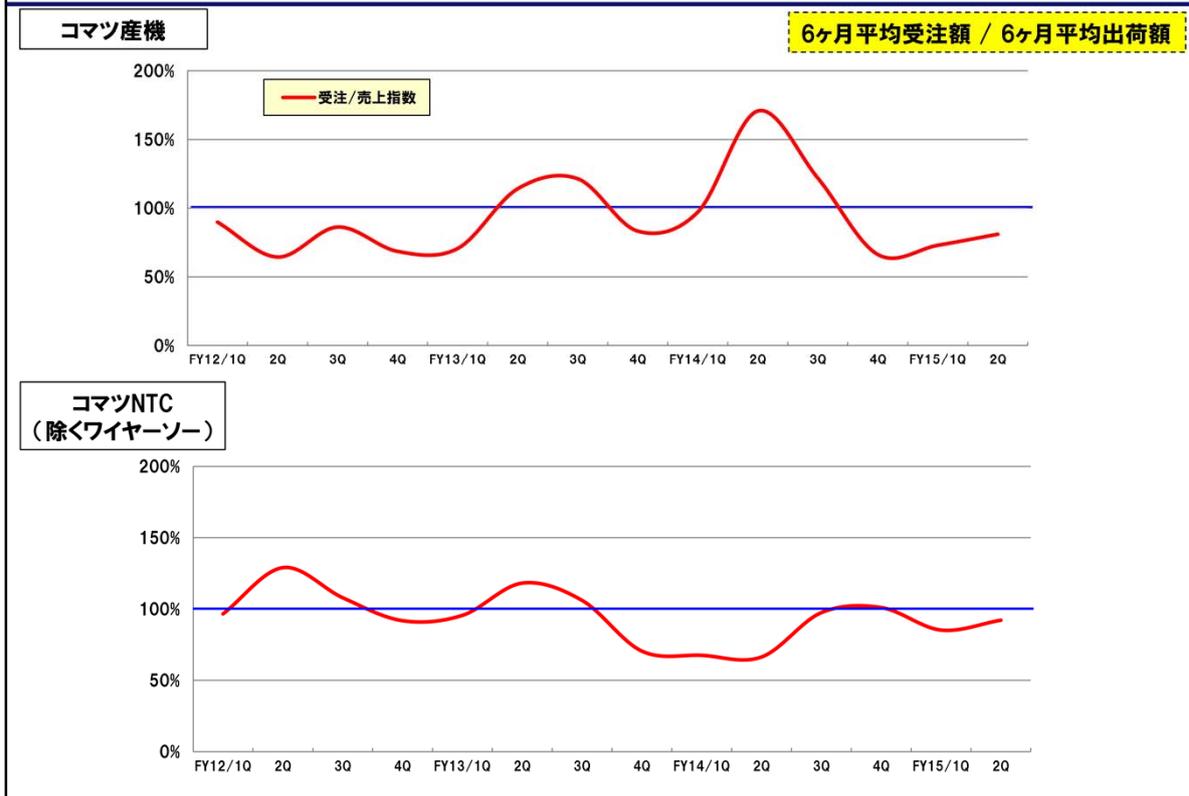


(※) 当第1四半期より、メキシコ代理店の買収に伴い、「北米」に含まれていた一部のメキシコ向け売上高を「中南米」に変更。(過去分も遡及して組替表示)





- 鉱山機械新車の、受注と売上の指数の推移を示しております。
- グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。
- 上段のコマツアメリカのダンプの状況ですが、第2四半期の受注は引き続き低調で、指数は70%です。
- 中段のドイツで製造する超大型のH/Eの状況は、受注は底ばいですが、指数は約120%に回復しました。
- 下段の日本で製造するその他の鉱山機械の状況ですが、こちらも引き続き受注は低調で、指数は約80%です。



□産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

□上段のコマツ産機の板金・鍛圧事業の受注の状況は、第2四半期で中・大型の鍛圧機械の受注が低調で、指数は約80%です。

□コマツNTCのワイヤーソー以外の受注と売上の指数は、自動車メーカー向け受注が引き続き弱く、指数は90%超です。

【売上・損益】

- ・ 連結売上高は前年同期比▲7.5%減収の4,463億円。
- ・ 営業利益は前年同期比▲20.7%減益の493億円。売上高営業利益率は同▲1.9ポイント減の11.0%。
- ・ 純利益は前年同期比▲19.2%減益の325億円。

金額単位:億円	FY2014/2Q ¥102.8/USD ¥137.7/EUR ¥16.6/RMB	FY2015/2Q ¥122.6/USD ¥136.2/EUR ¥19.5/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	4,823	4,463	▲359	▲7.5%
セグメント利益	629	488	▲141	▲22.4%
その他の営業収益(▲費用)	▲7	5	+12	-
営業利益	621	493	▲128	▲20.7%
売上高営業利益率	12.9%	11.0%	▲1.9ポイント	-
その他の収益(▲費用)	0	▲23	▲24	-
税引前純利益	622	469	▲153	▲24.6%
純利益*	403	325	▲77	▲19.2%

*米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲7.9%減収の3,914億円。セグメント利益は▲23.2%減益の451億円。セグメント利益率も▲2.3ポイント悪化し、11.5%。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲5.1%減収の560億円。セグメント利益は▲8.4%減益の42億円。

□:利益率 ():外部顧客向け売上高

金額単位:億円	FY2014/2Q	FY2015/2Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	4,823	4,463	▲359	▲7.5%
建設機械・車両	(4,247) 4,251	(3,908) 3,914	(▲338) ▲336	(▲8.0%) ▲7.9%
産業機械他	(575) 590	(555) 560	(▲20) ▲30	(▲3.6%) ▲5.1%
消去	▲18	▲11	+7	-
セグメント利益	□13.0% 629	□10.9% 488	▲141	▲22.4%
建設機械・車両	□13.8% 588	□11.5% 451	▲136	▲23.2%
産業機械他	□7.9% 46	□7.6% 42	▲3	▲8.4%
消去または全社	▲5	▲5	▲0	-

各セグメントの状況:

■ 建設機械・車両

北米において鉱山機械の需要を取り込んだものの、その他地域の鉱山機械の需要低迷に伴う販売減少や中国をはじめとする新興国における需要減少が大きく、減収・減益となりました。

■ 産業機械他

半導体業界の好調な設備稼働に支えられギガフォンの売上げが伸長したものの、全体としては減収・減益となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲8.0%減収の3,908億円。
- ・北米が伸長したものの鉱山機械や中国・中南米等の減少が大きく、伝統市場の比率が52%に増加。

